← DOWNLOADS

— Company Overview

業務に、AIを溶け込ませる。

手放すものを決め、残すものを変える。会社・サービス概要。

LAST UPDATED

2026年5月1日

PDFをダウンロード ——

PDF — A4 / 約15ページ

— CONTENTS

1. 私たちが見ている景色

2. 業務観察というアプローチ

3. 4フェーズの全体像

4. ノウハウを囲い込まない理由

5. サービスマップ — 3事業

6. AIトレーニング

7. AI業務改善コンサル・受託開発

8. AI留学（合宿型）
9. クライアントゼロ事例
10. 社名の由来
11. 代表メッセージ
12. 会社情報・お問い合わせ

「AIを入れた。でも、業務は変わっていない」。多くの組織で繰り返される、この既視感。原因はツールではなく、業務の構造そのものにあります。LITERAS AIは、AIを乗せる前に業務を観察し、手放すものを決めることから始めます。本資料は、私たちが何者で、何をしているのかを3分で把握いただくための一冊です。

1. 私たちが見ている景色

AIを入れた。でも、業務は変わっていない。

多くの組織で、同じことが起きています。ツールを契約した。研修を受けた。しかし半年後、現場は以前と大きく変わっていない。原因は、業務を変えずにAIを乗せようとするからです。業務の構造を先に問い直さなければ、どれだけ優れたツールも余剰になります。

私たちLITERAS AIは、最初に業務を「観察」することから始めます。どの業務を残すか。どの業務を手放すか。その選択を先に行うことで、AIを溶け込ませる準備を整えます。

> **AIを入れる前に、手放す業務を決める。**

2. 業務観察というアプローチ

業務観察とは、AI後の目で業務を見直すことです。

— LITERAS AI 独自メソッド

業務観察（ぎょうむかんさつ）

現場に入り、実際の業務フロー・入力データ・ボトルネックを目視・ヒアリング・データで確認し、AIを当てるべき業務／手放すべき業務／残すべき業務を仕分けする工程。

他社のアプローチとの違い

観点	一般的なアプローチ	LITERAS AIの
呼び方	アセスメント／ヒアリング／業務分析	業務観察（固有メソッド名）
目的	要件定義／AI適用範囲の合意	「手放す業務」と「溶かす業務」の仕分け
方法	担当者ヒアリング中心	現場入り・実データ確認・フロー図化
成果物	RFPや提案書	「手放す業務リスト」＋「AI当て先マップ」

業務観察は、提案の準備工程ではありません。これ自体が、組織のAI化の設計図を作る時間です。観察の結果によっては、「まだAIを入れる段階でない」と判断することもあります。その判断ができることが、私たちの強みです。

3. 4フェーズの全体像

観察から始め、溶け込むまで続ける。私たちのプロジェクトは4つのフェーズで構成されます。

Phase 1

業務観察

Phase 2

PoC

Phase 3

受託開発

Phase 4

サポート

フェーズ	内容	期間	参考価格	成果物
Phase 1 業務観察	現場フロー確認・手放す業務リスト作成・AI当て先マップ策定	2〜4週間	40万円〜（業務規模・部門数により変動）	「手放す業務リスト」「AI導入優先度マップ」
Phase 2 PoC（小規模検証）	1業務を選定し、小さく試作・効果測定。本実装への投資判断の根拠を作る	4〜8週間	個別見積	PoC評価レポート・本実装判断書
Phase 3 受託開発	生成AIシステム・自動化エージェント・業務組込アプリの本実装	2〜4ヶ月	個別見積	本番稼働システム・運用マニュアル
Phase 4 サポート	稼働後の精度改善・運用相談・追加業務への横展開	月次契約	個別見積	月次改善レポート

Phase 1のみのご依頼も承ります。業務観察の結果を自社開発チームに渡すかたちでも構いません。

4. ノウハウを囲い込まない理由

AI業界には、知見を囲い込む構造があります。どの業務にAIが効くかを開示すれば、自社のコンサル価値が下がるからです。私たちは逆の立場を取ります。業務カテゴリ別の「手放す業務リスト」を継続的に公開し、業界共通の言語として育てていく。それが私たちの倫理です。

リストを公開しても、「観察から溶け込みまで」の設計力は模倣できません。知見を流通させることで、より多くの組織が正しいAI化に踏み出せる。それが、社会全体のAIリテラシーを底上げする最短経路だと考えています。

「手放す業務」の例（バックオフィス共通）

- 定型フォーマットへの転記・コピー作業
- 社内向けの議事録手書き・清書
- 定型文書（発注書・請求書・稟議書）の初稿作成
- 規則性のあるデータ集計・グラフ化
- 問い合わせの一次仕分けと定型回答
- スケジュール調整メールの往復

このリストは随時更新しています。最新版は literas-ai.jp/columns でも公開しています。

5. サービスマップ — 3つの入口、1つの目的

LITERAS AIには3つの事業があります。どの入口から始めても、最終的に向かう先は同じです。**業務にAIが溶け込み、本質的な仕事に時間が戻る状態。**

— 01

AIトレーニング

組織のリテラシーを底上げし、AI化の土台をつくる

— 02

AI業務改善
コンサル・受託開発

業務観察で「手放す業務」を特定し、AIを溶け込ませる

— 03

AI留学

使わざるを得ない環境で1週間、AI活用を身体化させる

6. 事業01：AIトレーニング

知識を増やす場ではない。業務を変える時間です。

LITERAS AIのトレーニングは、汎用スライドを使いません。事前に受講企業の業務内容を確認し、ドリルの題材を実際の業務から組みます。Day1に習ったことをDay3で自分の業務に当ててみる。そのサイクルが、研修後に業務が変わる理由です。

プログラム構成（標準3日間）

日程	テーマ	形式
Day 1	AIの基礎と業務への接続	講義＋ハンズオン
Day 2	業務別ドリル（受講者の実業務を題材に）	ハンズオン中心
Day 3	自社業務への適用設計	ワーク＋発表

対象：全社員向け／管理職向け／経営層向け（役割別カリキュラム）

規模：10〜100名程度（1回あたり最大15〜30名）

価格：1名あたり ¥300,000（税抜）／3日間

フォロー：研修後30日間のQ&A対応付き

7. 事業02：AI業務改善コンサル・受託開発

バックオフィスを、まず変える。

LITERAS AIは、バックオフィス業務に特化しています。経理・人事・法務・購買・総務。この領域はAI化による削減インパクトが大きく、かつ大手SIが手を出しにくい中堅・中小規模での実績を作りやすい。だから選んでいます。

対応できること

請求書・発注書処理の自動化

人事評価・採用業務のAI補助

社内問い合わせ対応の自動仕分け

契約書のレビュー補助・要約生成

経費精算・稟議のフロー自動化

こんな組織に相談されています

従業員50〜500名の中堅企業

AI化を「検討中」で止まっている組織

過去に他社で導入したが現場に定着しなかった経験がある組織

進め方：業務観察 → PoC → 受託開発 → サポート（4フェーズ）
参考価格：業務観察パッケージ 40万円〜／PoC・受託開発・サポートは個別見積
無料相談：45分（contact）

8. 事業03：AI留学（合宿型）

学ぶより、使わざるを得ない環境に身を置く。

英語は単語帳では話せるようになりません。AIも同じです。使い続ける時間が、反射神経を作ります。AI留学は、「まずAIに聞く」という状態を7日間かけて身体化させるプログラムです。

項目	内容
形式	完全オフライン・宿泊型合宿（7日間）
対象	経営層・管理職・次世代リーダー層（複数名推奨）
定員	1回 最大30名
初回開催	2026年8月（予定）
場所	国内（都市型ホテル or リゾート施設、詳細は応相談）

参加後に変わること

社員が戻ってきたとき、「まずAIに聞く」が既定動作になっている

複数名が一緒に経験するため、社内で相互レビューが自然に立ち上がる

セキュリティ感度が身体化し、安全な使い方が定着する

9. クライアントゼロ — 自社業務をAI化した実例

最初のクライアントは、私たち自身です。

私たちは創業と同時に、自社の業務をAIで再設計することを決めました。他社に提案する前に、自分たちが試し、数字を持つ。それが前提です。

実施した業務AI化（創業1ヶ月時点）

業務	AI化の内容	削減工数（目安）
経理業務	領収書・請求書の仕分けと記帳補助：Claude + Google スプレッドシート連携で自動分類	月3〜4時間 → 約30分（取引件数 月30〜50件規模）
契約処理	業務委託契約書の初稿生成：Claudeによるドラフト出力 + 法的チェックフロー	1件あたり 約2〜3時間 → 約40分
社内情報整理	プロジェクト情報をAIメモリ構造で管理。担当者が「どこに何があるか」を毎回調べる時間を排除	1日あたり 約30〜60分の探索コストをほぼゼロに

数字は前提条件により変動します。ここに記載しているのは、業務観察の設計と実施方法が正しければ、創業直後の1人体制でも確実に削減できる水準を示すものです。クライアント企業での本格実装では、業務観察を通じてより精度の高い試算を提示します。

10. 社名の由来 — LITERAS = "re照らす"

社名に込めた、二つの意味。

意味01 — Literacy（リテラシー）

AIを使いこなせる力。それは選ばれた一部の人だけのものにしてはいけない。技術と人の境界線に立ち、翻訳し、橋を架ける。それが私たちの仕事です。

意味02 — re-照らす

「LITERAS」は、英語の Literacy と、日本語の**「re照らす（もう一度照らす）」**を重ねた造語です。少子高齢化の中で停滞した日本経済を、AIの力でもう一度照らし直したい。その想いを社名に込めています。

使われなくなった技術が、再び光を持つとき。本質的な仕事に向き直れる時間が生まれるとき。その積み重ねが、やがて大きな流れをつくる。LITERASという名前は、その連鎖を信じることから生まれました。

11. 代表メッセージ

業務から始める、がすべてです。

AIを導入すれば何かが変わる、という期待が先行している場面を、何度も見てきました。しかし実際には、業務の構造を先に問い直さなければ、ツールは空回りします。

LITERAS AIは、業務観察を最初の仕事と定めました。現場に入り、どの業務を手放し、どの業務にAIを溶け込ませるかを、一緒に考える。その設計があって初めて、AIは機能します。

私たちが最初に取り組んだのは、自社の経理と契約処理のAI化です。提案する前に、自分たちが体験する。その原則を、これからも続けます。

業務目線で、正直に、確かに。それだけです。

代表取締役　澁江 周真（Shibue Shuma）

12. 会社情報・お問い合わせ

会社名	株式会社LITERAS AI（LITERAS AI, Inc.）
代表取締役	澁江 周真

所在地	〒107-0061 東京都港区北青山1-3-3 三橋ビル 3階
設立	2026年4月
事業内容	AIトレーニング（法人向け）／AI業務改善コンサルティング・受託開発／AI留学（合宿型プログラム）
連絡先	info@literas-ai.jp
公式サイト	https://literas-ai.jp

ご相談の流れ

1. **無料相談（45分）** → 業務課題の概要共有・弊社アプローチの説明
2. **業務観察（有償）** → 現場フロー確認・手放す業務リスト作成（40万円〜）
3. **方針決定** → PoC・受託・研修など、次フェーズを選択

どこから始めればよいかわからない、という状態でも構いません。業務観察パッケージから始め、課題の輪郭を一緒に整理することができます。

— Get Started

まずは、業務の現状を聞かせてください。

ご相談例：自社のAI化の優先順位を一緒に整理したい／業務観察パッケージの内容を詳しく知りたい／
3事業のうちどれから始めるべきか相談したい

無料相談を予約する —

他の資料を見る